

留 学 報 告 書

記入日: 2013年 9月 30日

所属学部／研究科・学科／専攻	文学研究科仏文学専攻
留学先国	フランス
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	パリ第7大学 Universite Paris Diderot / Paris 7
留学期間	2012年 9月～2013年 7月
留学した時の学年	博士後期課程3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	修士課程1年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	人文社会学研究科
帰国年月日	2013年 7月 9日
明治大学卒業予定年	2015年 3月
留 学 先 大 学 に つ い て	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1 学期: 9月上旬～1月上旬 2 学期: 1月下旬～6月下旬
学生数	約 26,000 人
創立年	1970 年

留学費用項目	現地通貨(€)	円	備考
授業料		0 円	協定交流学生は登録料・授業料が無料。
宿舍費	€8,800	1,144,000 円	契約手続き料も含めた約 10 ヶ月分。
食費	€2,000	260,000 円	
図書費	€1,000	130,000 円	
学用品費	€50	6,500 円	
教養娯楽費	€2,000	260,000 円	主に旅行など。
被服費	€300	39,000 円	
医療費		0 円	
保険費		141,490 円	
渡航旅費		206,660 円	ANA 直行便往復分。
雑費		75,000 円	留学先大学に提出する書類の翻訳や大使館での手続き費用。
その他		円	
その他		円	
その他		円	
合計		2,262,650 円	

渡航関連

渡航経路: 成田空港-パリ・シャルル・ド・ゴール空港直行便

渡航費用

チケットの種類 ANA 直行便 エコ割ロングステイ

往路

復路

合計 206,660 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

『地球の歩き方 パリ&近郊の町 2012-13』(ダイヤモンド社)

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

アパートマン

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数)

3)住居を探した方法:

LODGIS という民間不動産会社を利用して入居先の物件を探しました。

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

留学手続き中の7月に受け入れ先の大学から「斡旋していた寮に入れることができなくなった」という連絡があり、急遽自分自身で滞在先を探すことになりました。寮に入るよりも費用は割高になりましたが、一人暮らしをすることで得られた経験も糧になったのではないかと思います。

現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった利用した:

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

大学の手続きなどに関しては大学の窓口の担当者の方に相談しましたが、普段の生活に関する問題については友人に相談することが多かったです。また、滞在先のアパートマンでもいくつか小さな問題がありましたが、大家さんや管理人とコミュニケーションをとることで問題は解決しました。

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

留学前の準備としてはインターネットで独自に調べたり、留学経験がある友人たちに治安についての情報を集めました。滞在中に盗難被害に遭ってしまったのですが、留学前に加入した保険サービスに連絡し、事後の対応を迅速にとることができました。盗難被害に遭ってしまった直後は、カード会社に連絡して引き落とし機能を止めてもらい、新たなカードの再発行手続きをしました。被害に遭ったのが夕方だったので、翌日の午前中に警察署に行き、被害届けを提出しました。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

滞在先のアパートマンに Wi-fi 契約が含まれていたため、現地に着してからすぐにインターネットを利用することができました。また、大学内でも無料 Wi-fi が使えたので、インターネット利用に関しては特に不自由を感じませんでした。携帯電話はプリペイド式のものを購入して使っていました。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか? (例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

出国前に CitiBank で口座を開設し、現金が必要な場合は現地の ATM で引き落とした。現地での買い物はクレジットカードによるカード決済の方が多かったです。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

調達できないというわけではないものの、勉強・研究のための必要最低限の日本語の書籍はあった方がいいように思います。

進路について

1) 進路 <input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input checked="" type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など 博士課程に在籍しているということもあり、留学中も主に論文執筆や研究活動が生活の中心だった。
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。 学部生のときに留学経験はないのですが、留学経験は進学後の選択肢が広がる可能性があるように思います(海外の大学院に長期留学するなど)。大学院の入学試験については、過去問題を公開している大学院もあると思いますので、できるだけ具体的な試験対策をとるようすることを心がけるといいかと思います。また、研究指導をお願いしたい教授と予めコンタクトをとるようになっておくいいのではないのでしょうか。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。 就職を選択するにせよ進学を選択するにせよ、留学する前から帰国後の身の振り方を考えておくことが必要かと思えます。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
8 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Théories critiques	批評理論
科目設置学部・研究科	UFR LAC (Lettres, arts, cinéma)
履修期間	2013 年 1 月～6 月
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 120 分が 1 回
担当教授	Pierre Zaoui et Laurent Zimmermann
授業内容	アリストテレスを起点とし、アウエルバッハを経由して 20 世紀の思想・哲学における「ミメシス(模倣)」の系譜を辿るもの。20 世紀の哲学者に関してはジル・ドゥルーズを中心に論じられた。
試験・課題など	設問に対して自由記述で答えるかたちのテスト。試験時間は3時間。
感想を自由記入	哲学的に重要だと思われる「ミメシス」をテーマとした講義でしたが、アウエルバッハについて注意深く言及されていた点は面白い点でした。ドゥルーズや精神分析についてのみならず、20 世紀初頭の哲学者にも焦点が当てられていたことがとても勉強になりました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Arts et histoires du mensonge		虚構・フィクションの技法と歴史	
科目設置学部・研究科	UFR LAC (Lettres, arts, cinéma)		
履修期間	2013年1月～6月		
単位数	4		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が1回		
担当教授	Florence Dumora		
授業内容	モリエールやラシーヌの戯曲における「嘘」の表象をめぐるもの。アウグスティヌスの古典的な考察や、アレクサンドル・コイレ、ハンナ・アーレントといった現代の思想家たちの理論に照らして「嘘」の意味、機能について講義が行われた。		
試験・課題など	学期末にレポート提出。		
感想を自由記入	馴染み深い戯曲作品を扱いながら、「嘘」というテーマを深く掘り下げることを趣旨とした講義でした。学生が発表する回もありましたが、個々の研究に根差したさまざまな視点に触れることができたのもよかったです。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
La memoire du monde		世界の記憶	
科目設置学部・研究科	UFR LAC (Lettres, arts, cinéma)		
履修期間	2013年1月～6月		
単位数	4		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が1回		
担当教授	Bernadette Bricout		
授業内容	主に中世の寓話を題材としつつ、グレマスなどの物語論を用いてそれらを読解していく講義。神話、寓話、口承文学など、さまざまな文学ジャンルが横断的に扱われた。		
試験・課題など	学期末にレポート提出。		
感想を自由記入	グレマスやプロップなど、古典的な物語論を基盤としながら主に寓話テキストを扱う講義でしたが、扱うテキストが初見のものばかりで新たな文学的な地平を垣間見たような気がしました。また講義には精神分析家の聴講生もおり、彼の見解を聴くことができたのも刺激的な経験でした。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
L'intranquillité a l'œuvre		作品における「不穏さ」	
科目設置学部・研究科	UFR LAC (Lettres, arts, cinéma)		
履修期間	2013年1月～6月		
単位数	4		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が1回		
担当教授			
授業内容	ポルトガル出身の作家フェルナンド・ペソア(1888-1935)に関する講義。ペソアが用いたペンネームが複数に及び、それらの虚構性とその関連性、間テクスト性について論じられた。		
試験・課題など	学期末にレポート提出。		
感想を自由記入	日本では近年に至るまで見逃されがちであったフェルナンド・ペソアについての講義を受けることができてとても刺激的でした。ペソアの伝記的な側面や日記を丁寧に読み解いていくことで、彼が持っていた複数の筆名の意義を問い直す契機となったように思います。		

留学に関するタイムチャート

留学までの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。
(形式は箇条書きなど簡単なもので構いません)

2012年 1月～3月	協定校留学について学内専攻の結果発表。キャンパスフランスの手続き。 留学手続きに必要な書類の確認と準備開始。
4月～7月	大使館に提出するための出身校・在籍校の成績証明書などの書類の準備。 翻訳業者に各種書類の翻訳依頼をし、大使館での査定手続き。ビザ申請の申込み。 留学先での住居探し。飛行機のチケット準備。
8月～9月	大使館でビザ申請。民間不動産会社を通じた住居契約。留学先のパリに向けて渡仏。 移民局で申請手続き。大学で履修届提出。講義開始。
10月～12月	講義、およびテスト。移民局で健康診断を経て、滞在許可証を発行してもらう。 12月にアルザスでの国際シンポジウムで研究発表。
2013年 1月～3月	後期の講義がはじまる。
4月～7月	4月末に後期の講義期間が終了。5月にテスト、およびレポート提出。 また、4月末には参加している日仏学生交流サークルでのイベントの手伝い。 留学先の所属窓口で成績証明書の発行手続き。 7月上旬に帰国。
8月～9月	帰国後の報告書類の作成など。